

機関番号：11501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20600004

研究課題名（和文） 理工系大学・学部における女子学生低比率の構造分析～ジェンダー平等に向けて～

研究課題名（英文） The structural analysis of the low ratio of female students in college level Science, Engineering and Technology (SET)

研究代表者

河野 銀子 (KAWANO Ginko)

山形大学・地域教育文化学部・准教授

研究者番号：10282196

研究成果の概要（和文）：日本の理工系大学・学部を対象とした調査を実施したところ、女性学生比率が30%を超えるのは65学部（該当学部の22%）しかないことがわかった。理工系学部の女性学生比率が低い理由は複数考えられるが、本研究では、理工系を選択する女子高校生が「入りやすいところ（入試科目が少ない、合格難易度が低い）に入学する」という進学行動をとらないことを強調した。不本意に理工系を選択する者もいる男性とは、対照的な進学行動である。

研究成果の概要（英文）：Sixty-five universities and majors (approximately 22 percent) had over thirty percent of female enrollment and involvements in the field of Science, Engineering and Technology (SET). One of the reason why so few female students in SET is that high school girls who choose the field in SET do not enrollment to the less competitive institutions. This tendency is very different from the choosing way of male students.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：教育社会学、高等教育、ジェンダー研究

科研費の分科・細目：(時限)

キーワード：ジェンダーと科学技術、高大接続、大学入試、科学技術分野の人材育成、202030、理系進路選択、科学技術政策、男女共同参画

## 1. 研究開始当初の背景

日本の大学は大衆化段階に入り女子の4年制大学進学率も上昇したが、その専攻分野には大きな偏りがあった。とりわけ、理工系学部の女性学生比率は他分野と比べても、他先進諸国と比べても低く、その要因を明らかにすることは、ジェンダー研究のみならず、高等教育研究や、ジェンダー研究や科学技術分野の人材

多様化政策などともかかわる重要な課題であった。

## 2. 研究の目的

第一に、日本の理工系大学・学部における女性学生比率の実態を把握すること。第二に、女性学生比率の高い理工系大学・学文特徴を明らかにすること。

### 3. 研究の方法

研究対象を日本国内の4年制大学の理工系大学・学部とした。実際に学部選択を行う高校生の目線にたった分析を行うため、受験雑誌などで「理工系」と分類されている学部をリストアップした。収集したのは、研究開始年度である2008年度の入学者データで、大学案内やインターネット上で公表されているデータ、および、各大学への問い合わせによって、女性学生の比率を把握した。その後、女性学生比率が高い大学・学部と低い大学・学部の構造を分析した。構造要因としては、設置者や設置年、立地や規模、授業料や入試方法、女性教員の比率などを取り上げた。

### 4. 研究成果

主な知見は下記のとおりである。

- (1) 上記の方法でリストアップできたのは、228大学(国立59、公立21、私立148)、394学部(国立110、公立31、私立253)、1560学科(国立608、公立95、私立857)であった。これらのうち、最終的に男女別の入学者数が判明したのは、172大学、299学部であり、私立大学の情報開示の低調さが目立った。
- (2) 男女別入学者数が入手できた大学・学部のうち、女性学生の比率が30%を超えているのは65学部あり、これはリストアップされた学部の22%にあたる。国は、2020年までに女性研究者等の比率を30%にするという目標を掲げているが、当該学部への入学者比率がこれを超えているのは、まだ2割程度であることがわかった。一方、女性学生比率が10%を下回るのは73学部であった。
- (3) 女性学生比率が30%以上の理工系大学・学部のうち、大学全体の女性教員比率が30%を超えるのは4大学で、すべて女子大学であった。
- (4) 女性学生比率が30%以上の大学・学部の所在地は、若干ではあるが中部ブロックに多い。授業料等の諸経費は、設置者による差が大きく、女性学生比率に影響する要因であるかどうかは明確にならなかった。
- (5) 入試の実施状況については、「入試実施単位」で捉えることにしたところ、当該実施単位は655あった。これらの単位について、入試方法・日程・科目、合格難易度、などとの関係を分析したところ、

入試科目が少なく合格難易度が低い理工系では女性学生比率が低く、入試科目が多く超難関に次ぐ合格難易度の理工系では女性学生比率が高いことが明らかになった。つまり、理工系学部を選択する女性は入学が容易な大学に入学していない。特段の理由がなければ男性は理工系を選択することはすでに河野が指摘しているが、今回の結果は、女性の進学行動が男性のそれとは異なることを明らかにした。不本意に理工系を選択する女性が少ないことが、結果的に理工系学部の女性学生比率の低さとなって表れているのである。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計2件)

KAWANO Ginko、Choice and Confusion of High School Girls、Society for Social Studied of Science、2010.8.26. The University of Tokyo

河野銀子、理工系大学・学部における女性学生比率に関する研究、国際ジェンダー学会、2009年9月13日、福岡女子大学

### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

河野 銀子 (KAWANO GINKO)  
山形大学・地域教育部文化学部・准教授  
研究者番号：10282196

#### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

#### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：